

高等教育研究センター

Research Center for Higher Education

Newsletter

No.005

2012.2

- GPA特集
- 第9回FDショートセミナーの開催報告
- センターからのお知らせ
- スタッフからひとこと

信州大学 | 高等教育研究センター
SHINSHU UNIVERSITY

GPA特集 第4弾

●●●GPA制度についての全学的な検討のために●●●

今回で4回連続GPAのお話となります。今回は、高等教育研究センターのいわゆる☆☆☆計画(部局重点事業計画)のうち、GPAを対象としているものをご紹介します。それを解説していきます。当センターは、本年度の事業計画ヒアリングで「GPA制度の導入については、各学部には様々な意見があり、大変苦労していると思うが、今まで以上に高等教育研究センターが中心となって、検討を行うとともに各学部と調整することで、本学にとって意義のあるGPA制度となることを期待する。」という指摘をいただいております。この計画は、その指摘を受け、GPA制度について大学が意思決定するために必要な準備を行うことを目的に立てたものです。

☆☆☆計画「本学にとって意義のあるGPA制度を構築する」

(目的等)

GPA制度を、形だけのものを導入するのではなく、本学学生と教職員にとって意義のあるものとして導入することを目指す。GPA制度の根幹は、学生にとっては「成績をどう取るか」であり、教職員にとっては「成績をどう付けるか」である。学生に対し、成績は学生個人の行動の結果であるとして認識させることにより、授業は責任感を涵養する場と認識させる。また成績評価の尺度を授業目標への達成度とすることで、成功体験を積み重ねる場と位置づけ、同時に個々の授業での目標達成をカリキュラムの教育目標、つまり学位授与の方針(DP)に結びつける。

関係する中期計画：「学士課程において成績評価分布の公表により成績評価の厳格化を進めるとともに、その上でGPA制度等の活用を図る」

関係するMethod：赤羽Method 2「教育の質保証の推進」、小池Method 2「GPA制度の導入による大学教育の質保証・向上に係る施策の企画」



(平成24年度の計画)

- ①GPA制度は、日本から見ると日本限定タイプの国内標準と、北米タイプの世界標準の2方式に分けられる。平成24年度は双方のいい点・悪い点を十分に理解した上で大学が意思決定できるよう、先行大学の状況などの調査研究とGPA制度に関するFDに努める。
- ②学生が納得でき大学として教育目標への到達度の指標となるような成績評価の仕方とシラバスの書き方に関するFDを展開する。
- ③GPA制度に関するシミュレーションを実施する。

(平成25年度以降の計画)

- ①GPAに関するシミュレーションを踏まえ、平成25年度に大学として意思決定する。
- ②GPA制度を支える様々な補助制度(学習相談制度等)を整備した上で、「成績」というキーワードを中心にGPA制度を学生の人間力向上の手段とする(=自信を持って楽しく学ぶ、責任感があり賢い学生を育てる)。

☆☆☆計画の解説

計画のタイトル「本学にとって意義のあるGPA制度を構築する」は、冒頭に紹介した事業計画ヒアリングの指摘「本学にとって意義のあるGPA制度となることを期待する」に対し、この計画がそれに直接応えるものであることを示しています。

「成績をどう取るか」とは、ここでは「どのようなテクニックを使ってよい成績を取るか」というようなことは全く意図しておりません。まず、授業の成績は自分が授業目標に対し何をしたか、何を積み上げていったかの結果である、ということを学生にしっかり分からせませす。そのためには、一年次の授業で、「授業の成績は授業目標への到達度で測られる」ということを

